



「大気環境学—地球の 気象環境と生物環境—」

真木太一著

朝倉書店, 2000年9月, B5判,
140頁, 3,900円(本体価格),
ISBN4-254-18006-3

10年ほど前に砂漠化に関する研究会などで著者の真木氏の発表を何度か聞く機会があった。そのため、この本のタイトルを見た時には、「微気象」「砂漠化」「防砂ネット」のキーワードで本が構成されていると期待した。しかし、以下に記す目次を見ていただければ分かるように、本書は気象・気候学の基礎について半分以上の頁がさかれ、残りが大気環境と生物環境にあてられている。基礎に偏らず、応用にも偏らず、大気科学と環境問題の広範囲の分野を1冊にまとめている。

目次

1. 大気の特徴
2. 大気中の放射・熱収支
3. 大気の熱力学
4. 降水現象
5. 局地気象・気候と都市気候
6. 接地気層中の微気象環境
7. 気候変化・変動と異常気象
8. 地球温暖化
9. 大気汚染
10. オゾン層の破壊
11. エルニーニョ
12. 酸性雨
13. 砂漠化
14. 森林破壊
15. その他の環境問題

この本は、あとがきにも書かれているように、真木氏が農学部で行う講義を強く意識して書かれた経緯がある。私は農学部のカリキュラムについての知識はないが、理学部とは違い物理や数学を系統的に学習していない学生が受講するのではないだろうか。私が教鞭をとる教員養成学部や教養教育と似た側面を持つと推測される。そのような学生のために、幾つかの工夫が施されている。真木氏の専門分野の微気象(第6章)以外では、数式が最小限に抑えられている。B5判140頁に豊富な140の図と26の表を用いている。真木氏が加筆・修正を行っている図表も少なくない。このように学生の理解のために労を惜しんではない。気象学の基礎を扱う章では、定評のある教科書からの図の引用も多いが、その原著論文も併記されている。意欲のある学生が原著論文を調べるのに役立つであろう。

研究にまつわる逸話なども多く取り上げられている。特に、第10章「オゾン層の破壊」では、「オゾンホール発見の不手際と著者の悔恨」と云うドッキリするような題目で、米国と日本の“不手際”を紹介している。未来ある学生への真木氏の研究者としてのメッセージである。

残念に感じる部分もある。第13章の「砂漠化」では、真木氏の専門である砂漠化防止の技術的な側面が紹介されている。しかし、砂漠化の素過程の理解も砂漠化防止に重要であろうから、自然科学としての砂漠化の内容も充実して欲しかった。

気象学を専門としたい学生が前半の気象・気候学の基礎を読むと、物足りなさを感じるかも知れない。しかし、気象学・気候学と環境問題について概観したい学生にとっては利用しやすい参考書になろう。

(群馬大学教育学部 岩崎博之)